

自分の身は自分で守れ！

身の危険を感じるような豪雨や台風にみまわれたとき、あなたはどのような行動をとりますか？適切な判断をしてとる避難行動とはどのようなものでしょう。災害時の恐さを知った上で、自分の安全を確保しましょう！



さあ、モニターの前に立ってみよう！



地球 館

2 階

エスカレーター横

豪雨・暴風疑似体験アトラクション
HERASEON

1

豪雨パターンのシュミレーションを体験しよう



映像に映っている自分の状況を記録してみよう

- ・ 足元が見えない位雨が降る
- ・ 雷が落ちる
- ・ 降水量によって雨の強さが全然違う

傘が必要と感じる雨量
はどれくらい？
外に出たくないと感じ
る雨量はどれくらい？

傘が必要：
10mm/h 雨量
外に出たくない
80mm/h 雨量



雨量によって映像の見やすさを比較してみよう

地球 館

2 階

エスカレーター横

豪雨・暴風疑似体験アトラクション
HERASEON

2

台風パターンのシュミレーションを体験しよう



- ・ 足元が見えない位雨が降る
- ・ 風が弱いとき→葉・紙袋・ビニール袋
風が強いとき→ポリバケツ・ちょうちん・金魚・
看板が飛ぶ
木が倒れる
- ・ 足元が嵐のようになっている



自分の目の前を横切るものをチェックしておこう！

豪雨のときと
台風は何が違う
かしら？





3

豪雨パターンと台風パターンの違いは何か？



それぞれのパターンを比較し、決定的な違いを見つけ出そう！

台風パターンは雨だけでなく、風が吹いているため
→ものが飛んでくる
→横風により、視界が悪くなる

台風で一番怖いのはどんなことかしら？



大雨や台風のときに自分にできることは何か？
どう備えておくべきか？



感じたこと

わかったこと

考えたこと

大雨・・・雨量によってはずぶ濡れになるため、外出を控えること
雷が落ちてくることもあるので避難する

台風・・・風によりものが飛んでくる、頭上のものが落ちてくる
可能性がある

→命を守るために（自身の安全のために）
外出しない

→食べ物や水など生活必需品を備蓄しておく



新たな疑問

もっと知りたくなったこと

学習指導要領「(4) 気象とその変化」 この単元での学習で、校庭などで気象観測を継続的に行い、その観測記録に基づいて、気温、湿度、気圧、風向などの変化と天気との関係を見いだして理解する学習が示されています。国立科学博物館にあるシミュレーターを活用して、豪雨は台風のパターンを疑似体験することで、危険が伴う台風接近時や豪雨災害時の状態を実感することができます。博物館だからこそできる学習とも言えます。